

# 流域治水対策(水田の貯留機能向上)【農林水産省】

## 施策概要

水田の雨水貯留機能向上のための田んぼダム等に取り組む地域で実施される農地整備事業等を推進

## 効果

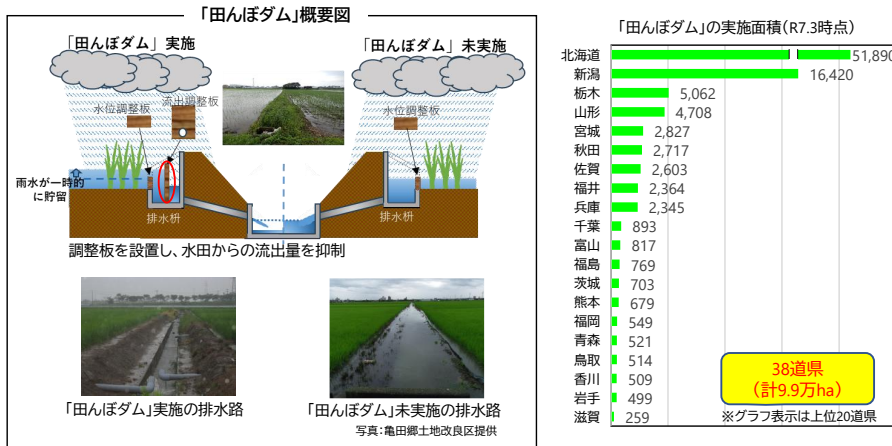
田んぼダムが雨水を貯留し、流出量の抑制及び浸水被害の軽減に寄与

### 全国的な対策と効果

水田の雨水貯留機能向上を図る取組を約**9.9万ha**で実施

#### ●田んぼダムとは？

小さな穴の開いた調整版などの器具を水田の落水口にとりつけて、流出量を抑えることで水田の雨水貯留機能の強化を図り、周辺の農地・集落や下流域の浸水被害リスクの低減を図る取組

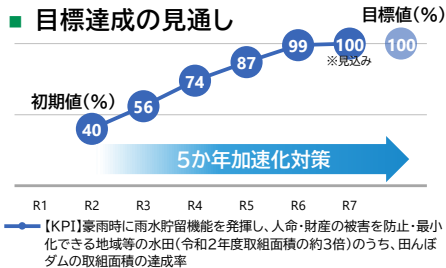


### ■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
259億円	132億円	148億円
R6	R7	累計
139億円	252億円	<b>931億円</b>

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

### ■ 目標達成の見通し



## 整備事例

# 田んぼダムの実施により、流出量を減少させ、浸水被害を軽減する



宮城県



宮城県大崎市



農業競争力強化農地整備事業

### ■ 農地整備と併せて「田んぼダム」の取組を推進



## 事業費

41億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)1.8億円)

## 事業の背景(地域の課題)

宮城県大崎市は北上川下流域に位置しています。平成27年9月の関東・東北豪雨、令和元年10月の東日本台風による大雨により、冠水が発生しました。そのため、市内では流域治水対策の一環である「田んぼダム」の実施の機運が高まりました。

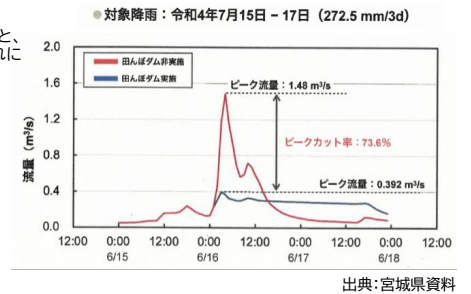


## 事業の内容

農地整備事業により区画形状の拡大を行うとともに、貯留した雨水等が短時間で排水可能となるよう、用排水路の分離、排水柵等の整備を実施し、「田んぼダム」用の堰板を設置しました。  
※堰板の設置は、大崎市単独事業

## 見込まれる効果

「田んぼダム」実施のシミュレーション結果によると、約74%のピークカット効果が見込まれます。これにより地域の浸水被害の軽減が見込まれます。



(1) 1 人命・財産の被害最小化 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 交通・ライフラインの維持 2 インフラの老朽化対策

(1) 3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進 施策のデジタル化 災害関連情報の高度化